



ぼうしゅ

芒種（5日）… 紫陽花が色付き始めます …

気温や湿度が上がり、衣替えの季節となりました。梅雨入りも間近と思われます。少し前から園庭の紫陽花も色付き始めています。入園式の式花も、今年は紫陽花をアレンジした寄せ植えにしてもらいました。立て看板や壁面装飾も紫陽花やカエルをあしらうという、今までにない年度初めとなりました。また、砂場の上のザクロ（柘榴）がきれいなオレンジ色の花を咲かせ始め、ポロポロと落ちた花のガクが「タコさんウインナー」のようで、子どもたちが砂場での遊びに使っています。アズの実も少しずつ色付き始めています。

<腐草為蛭 くされたるくさ ほたるとなる 6月10日~15日>

芒種の中候は「腐草為蛭」です。昔は腐った草が蛭になると思われていたようです。おもしろい話です。ホタルの幼虫は、餌となるカワニナという巻貝が棲むきれいな水辺がないと育ちません。私は小さい頃、家の中に蛭が飛んで来ることがありましたし、高校生の頃、部活からの帰り道、田んぼの側を通ると淡い光を放つホタルを見ることができました。青山小学校には、校庭の一角に「ホタルの小川」というホタルの育成水路がありますが、東京ではそのような人工的な環境がなければホタルを見ることは難しいでしょうね。ホタルの姿は、子どもたちに一度は見せてあげたい幻想的な光景です。

<青々とした緑も匂を過ぎると…>



どんなものにも匂があり、裏庭の落もプランターの花たちも、いつまでもきれいな姿ではありません。苗を買って植えた花も自然に生えてくる草花も、季節ごとに主役が次々と入れ替わっていきます。匂を過ぎたら手入れをすることは、教育環境を整えることであり、教員の大事な仕事です。今は子どもたちが遊ぶ傍らで大人がその姿を見せることで、興味をもった子が関わって、庭仕事の楽しさを感じたり、虫を見付けたりする時間をもつこともできています。



プランターにあるこの草はカタバミです。先日、泣いている子の気持ちを紛らわしてくれたのは、この実です。



タンポポやカエデは風に乗せて種を飛ばし、エンジュは鳥に運んでもらいます。このカタバミの実は、ある程度熟すと、ちょっとした刺激で実の筋の部分が裂けて、小さな種がピュッと弾け飛ぶのです。この仕掛けは、まねできそうもありません。改めて自然の知恵や不思議さを感じます。



幼稚園での遊びは、片付けも含めてのもので。きれいな花やおいしい実りも、手入れをしなければ得られません。手を掛けた分だけ、美しさやおいしさは倍増します。